

# 第10回 地域商社協議会 開催のお知らせ



2018年10月30日  
ふるさと名品オブ・ザ・イヤール実行委員会  
内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局  
農林水産省 経済産業省

「ふるさと名品オブ・ザ・イヤール」実行委員会（実行委員長：古田秘馬）は、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、農林水産省、及び経済産業省とともに、地域商社事業を志す官民の関係者約200名を毎回全国から集め、「地域商社協議会」を開催してまいりました。

本協議会開催も10回目を迎えます。これまでの地域商社協議会では、立ち上げフェーズ、成長フェーズ、ファイナンス、観光と地域商社、販路の海外展開など様々な角度からテーマを持って開催してきました。地域商社自体が、地域経済の活性化を目指して域外から「外貨」を稼ぐために、様々な地域の価値をプロデュースするということから、その系統も千差万別です。その中で、同業種として活躍する地域商社間のつながりによって、それぞれが抱える課題の解決手法や協働することによる更なる発展を期待するところです。

そこで今回の地域商社協議会は、地域商社間のつながりを作ってもらうことを目的として、商品開発・物流系事業者グループ、観光・ツーリズム系事業者グループ、まちづくり・人材育成系などその他事業者グループの事業形態別に分かれて、グループ毎に多種多様な地域商社のケーススタディを交流時間を挟みながら進めます。

さらに、全国の地域商社と、ふるさと名品オブ・ザ・イヤール実行委員会に参画する企業とのつながりで、地域商社としての新たな発展的な事業展開に向けた議論をしていきます。

全国の自治体のみならず、今後地域で推進する地域商社事業において、有意義な地域経済活性化手法の検討機会になると考えます。全国から、地域商社事業にご関心をお持ちの自治体、民間事業者の皆様にご参集いただければと思います。

## 【実施概要】

- ❖ 日時：2018年11月26日(月) 13:30～17:00（開場13:00）＜無料＞
- ❖ 場所：経済産業省 本館地下2階 講堂(受付は1階)  
〒100-8901 東京都千代田区霞ヶ関1丁目3番1号
- ❖ 定員：先着100名
- ❖ セミナー内容：別紙参照
- ❖ 主催 ふるさと名品オブ・ザ・イヤール実行委員会  
内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局、農林水産省、経済産業省
- ❖ 終了後、交流懇親会を経済産業省食堂で会費3,000円にて実施します。
  - ▶ 地域からご参加の皆様におかれては、**お酒などの地域産品**をお持ちいただけましたら、懇親会冒頭に、参加者からご紹介いただく機会を設ける予定です。

## 【お申し込み方法】

ふるさと名品オブ・ザ・イヤール 公式サイトよりお申し込みください

[https://furusatomeihin.jp/kyogikai\\_10jissi.php](https://furusatomeihin.jp/kyogikai_10jissi.php) ※おひとりずつの事前申し込みをお願い致します。

お問い合わせ：ふるさと名品オブ・ザ・イヤール事務局（JTB内）

E-Mail：[furusatomeihin@jtb.com](mailto:furusatomeihin@jtb.com) 営業時間：月～金 9:15-17:45（土日祝休業）

# 【セミナー内容】



## — 第1部 —

**13:30- ご挨拶**  
井上誠一（内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局地方創生総括官補）

**13:40- オープニングトーク**  
古田 秘馬（ふるさと名品オブ・ザ・イヤー実行委員長）

下記の各セッションは、3グループに分かれて実施します。

1グループあたりの参加希望をお聞きして、2～3チームに分ける場合もあります。

グループ1 商品開発・物流系事業者グループ ×2チーム

グループ2 観光・ツーリズム系事業者グループ ×2チーム

グループ3 まちづくり・人材育成系事業者グループ

**13:50- 1st 少人数グループセッション**  
地域商社ケーススタディ①（20分）  
グループ ディスカッション（30分）

**14:40- 休憩（5分）**

**14:45- 2nd 少人数グループセッション**  
地域商社ケーススタディ②（20分）  
グループ ディスカッション（30分）

**15:35- 休憩（5分）**

**15:30- 3rd 少人数グループセッション**  
ふるさと名品オブ・ザ・イヤー参加企業（15分）  
グループ交流（30分）

**16:15- 政府関連の支援制度紹介**

**16:30- クロージングトーク（進行・コメント：実行委員長古田秘馬）**  
少人数セッションにおける議論と提案された解決策を紹介し、そのポイントをレビューする。

**17:00 終了**

**17:15～ 懇親会（会費3,000円税込み）※定員80名まで**

# — 《1st少人数グループセッション》 —



## グループ1 (商品開発・物流系事業者グループ)

### チーム (1)

地域商社 事例発表社 **株式会社 関東地区昔がえりの会 (農業生産法人)**  
**代表取締役社長 小暮郁夫**

株式会社 関東地区 昔がえりの会は、地元の農家が集まって出資し、農家から農業をするために、株式会社として発足しました。外食最大手のZENSHOグループとの取組を皮切りに、商社や大手問屋の独占していた商圏を一農家が切り崩し、直接、モスフード、リンガーハット、アクセス、ファミリーマートなどと商談を進め、契約を結び、野菜の供給をしています。

### チーム (2)

地域商社 事例発表社 **一般財団法人こゆ地域づくり推進機構 代表理事 齋藤潤一**

宮崎県児湯郡新富町が新たに立ち上げた地域商社「一般財団法人こゆ地域づくり推進機構」。約10年間に渡る試行錯誤を経て、安定して収穫できるようになってきた今だからこそ、ライチの後継者不足の解消のために、ライチ自体の認知度を高め、消費量を増やすために、宮崎県の新しい特産品「国産ライチ」のブランディングと販路開拓を展開。さらに特産品の販売で得た利益を、起業家育成に投資し、持続可能で強い地域経済をつくりだすことを目指す地域商社。

## グループ2 観光・ツーリズム系事業者グループ

### チーム (1)

地域商社 事例発表社 **UDON HOUSE プロジェクトオーナー 古田 秘馬**

香川県三豊市で昨年誕生した地域商社うどんカンパニー。そのひとつのプロジェクトが、本格的に讃岐うどん文化について学び、瀬戸内の魅力を存分に楽しむ1泊2日のツアープログラムを提供していくUDON HOUSE。時代を超えて地域の人々に愛される食文化である「讃岐うどん」を武器に地域ブランディングに挑戦していく。

### チーム (2)

地域商社 事例発表社 **おもてなし山形 株式会社**  
**山形市商工観光部 観光戦略課 課長 青木哲志**

山形県山形市・天童市・上市市の三市が地方創生事業として、稼げる観光地域づくりに向け、自治体発で民間出資の完全民間企業 (DMC) を立ち上げた。域内及び県外の民間事業者が協力し、民間らしい経営手法による様々な地域・観光振興策を通じ、年間614万人の観光入れ込み客数 (三市連携観光地域づくり推進協議会調べ) の更なる増加と観光消費額の拡大を目指している。DMO + 地域商社 + 電力 + 将来的な金融事業という大きなコンセプトを推進している、全国的にも稀有な先進事例を展開中。

## グループ3 まちづくり・人材育成系事業者グループ

### チーム (1)

地域商社 事例発表社 **NextCommonsLab遠野 BrewingTonoチーム**  
**キリン株式会社 CSV本部 CSV推進部 絆づくり推進室 浅井 隆平**

2017年度 ふるさと名品オブ・ザ・イヤー コト部門の地方創生大賞を受賞。「ホップの里からビールの里へ」をキーワードに、日本産ホップの多品種栽培やブランド化、ビールに合うおつまみの生産、ホップ収穫を祝うビアフェスや、ホップがある町ならではのビアツーリズムの展開など、岩手県遠野市において、ホップとクラフトビールを通じた新しいまちづくりのチャレンジしている。現在、企業人でありながら、遠野で設立した新農業法人BEER EXPERIENCE株式会社に向向中。

# — 《2nd少人数グループセッション》 —



## グループ1 (商品開発・物流系事業者グループ)

### チーム (3)

地域商社 事例発表社 **株式会社GRA 代表 岩佐 大輝**

2015年度 ふるさと名品オブ・ザ・イヤー モノ部門の地方創生賞を受賞した「イチゴ スパークリングワイン ミガキイチゴ・ムス」。東日本大震災で壊滅的な被害を受けた町の再生には、強い雇用を生み出す強い経済、強い農業が必要だという思いから、強い農業を確立するために強いブランドを目指し、山元町産 - Made in Yamamotoを謳うミガキイチゴブランドを生み出し、現在は海外販路も広げている。

### チーム (4)

地域商社 事例発表社 **ひめ座 (くら) 協同組合 代表理事 平本 哲也**

愛媛県内の中小事業者で組織される「ひめ座 (くら) 協同組合」。愛媛県産の食品・工芸品を扱うセレクトショップ「四国 愛媛ひめくら」 (<https://www.himekura.jp>) を2017年4月にオープン。「もっと知りたい『えひめのこと』」「ものがたりを感じるスーベニアショップ」をコンセプトに、県産品のひとつくりににはできない、多様な魅力を届ける。

## グループ2 観光・ツーリズム系事業者グループ

### チーム (3)

地域商社 事例発表社 **信州いいやま観光局 インバウンド推進室長 柴田 さほり**

2010年北陸新幹線新駅を迎えるにあたり、長野県下8市町村に加え、新潟県1市で設立。お客様の受入プラットフォーム (ワンストップ機能) を担う法人として事業マネジメント機能を備え、スキーに依存した観光から通年型観光のグリーンツーリズムへと重点をシフトしてきている。「ブナの森の保全活動」を通じて地域のファン・リーダーを確保するとともに、地域住民がインストラクターを務めるなど、観光プログラムの企画やサービス提供に協力する地域住民参加型の観光振興が成果を上げてきている。現在は地域連携DMOとして観光庁に登録し、持続可能な組織運営を展開中。

### チーム (4)

地域商社 事例発表社 **ニセコリゾート観光協会  
ニセコ町商工観光課 課長 前原 功治**

観光関連事業者が厳しい経営環境にさらされる中、公益性を追求しながら迅速な意思決定を行い、自主的な財務基盤の構築も可能とする組織体の必要性が高まったところ、町民とニセコ町が50%ずつ出資して2003年に全国で初めて観光協会を株式会社化。ニセコエリアを顧客目線ととらえ、農業、商業等の他産業との連携も図りながら観光振興に取り組む。

## グループ3 まちづくり・人材育成系事業者グループ

### チーム (2)

地域商社 事例発表社 **日光珈琲 有限会社 風間総合サービス 社長 風間 教司**

古民家カフェブランド「日光珈琲」を手掛ける風間総合サービス。自身が開いた1軒のカフェを起点に、栃木県鹿沼市で空き家・空き店舗を活用した創業支援や観光振興に携わる。地域商社に必要な地域の核づくり、人づくりといった側面に加えて、現在は、鹿沼市に2店舗、日光市に2店舗のカフェを展開し、「城崎珈琲みはらしテラスカフェ」の立ち上げや運営に携わっている。

## 《3rd 少人数グループセッション》

### ふるさと名品オブ・ザ・イヤー参加企業

#### チーム（1）

##### 地域商社 サポート事例 **テレビ東京**

旅行選びも変化し、旅に「意味」「ストーリー」「感動」またヒトや地域との「交流」を求める人が増加しています。その旅の「目的」を映像として伝えることで幅広い世代に受け入れられ、またテレビによる情報発信は信憑性が高く旅先選びとして優位なものになります。このような各地域の魅力を映像コンテンツとして伝える番組「旅するおつかれ様」がスタート。（<https://www.halftime-tours.jp/>）  
映像コンテンツ活用した旅行企画、連携方法などをご紹介します。

#### チーム（2）

##### 地域商社 サポート事例 **JTB**

JTBグループは、日本の「食」「農」と「観光」、そして「文化」を結びつけ、国内外に“本物の日本の魅力”を伝えることにより交流人口の拡大と豊かな地域づくりへの貢献を目指し、食農観光の人材育成から商品開発、コーディネート、国内・海外への販売まで一貫通貫の「食農観光プラットフォーム」の構築を進めています。  
（JTB地域交流事業・食農で地域を元気にするプロジェクト <http://www.jtb.co.jp/chiikikoryu/>）  
その取組の一環である地域産品の輸出支援・販売とインバウンド向け着地型商品の造成販売を一体的に取り組む仕組「J's Agri」をご紹介します。

#### チーム（3）

##### 地域商社 サポート事例 **Yahoo! JAPAN**

エシカル消費をコンセプトにしたエールマーケットで地域で生産された商品、伝統工芸を紹介していくことで、地域商社を応援していきます。単に商品を紹介するだけでなく、地域の取材や社会課題を解決する特集展開も行います。新しく生まれ変わったエールマーケット（<https://yellmarket.yahoo.co.jp/>）との連携方法についてお話しします。

#### チーム（4）

##### 地域商社 サポート事例 **ホンモノジャパン**

それぞれの地域の特性を生かした、商品開発を進めてきました。地域で足りない、マーケティングを初め、マーケットとなる問屋、ユーザーと運動した、他にはない出口の見える物作りのサポートをしております。  
首都圏での展開を見据えた商品開発と、メーカーと共同での開発を特徴とし、人と産業を呼び込む地方創生の支援をしています。

#### チーム（5）

##### 地域商社 サポート事例 **津々浦々**

弊社は、品質管理支援、販路開拓支援など、食品加工事業者の「つくる」「うる」をワンストップで支援しています。高度な専門性を必要とする品質管理支援を、地域商社と連携し、地域の事業者への伴走支援をしていく会社です。当日は地域が抱えるさまざまな課題とそのアプローチ、最新事例をお話しします。

### 各ディスカッションでファシリテイトを務める地域商社協議会アンバサダーのみなさま

阿部憲三（（有）漂流岡山 代表取締役社長） 石井宏和（NPO法人札幌ビズカフェ 理事長）  
後藤大輔（株式会社萌す 代表取締役社長） 山本桂司（hand of gravity）